

2026 年度入学試験問題  
〔データサイエンス学部〕

一般選抜前期日程

# 小 論 文

〔論述（図表理解）〕

## 注 意

1. 指示があるまで、手を触れないこと。
2. 指示に従って、解答用紙に受験番号（算用数字）および氏名をはっきりと記入すること。
3. 解答は、解答用紙の指定された箇所に、横書きで記入すること。
4. 問題冊子は 8 ページ、解答用紙は 1 枚である。もし、問題冊子の落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどがあれば、ただちに申し出ること。
5. 問題冊子は持ち帰ること。

## 問題 (150 点)

図表 1~7 はそれぞれ米国と日本の機関によって集計・推計された統計学およびデータサイエンス関連の学位\*1 授与数や人材数に関するものです。これらをもとに、以下の設問に答えなさい。

### 設問 1

図表 1~3 をもとに、米国内の統計学、医学統計学、データサイエンス関連の学位授与の状況について、250 字以内で説明しなさい。

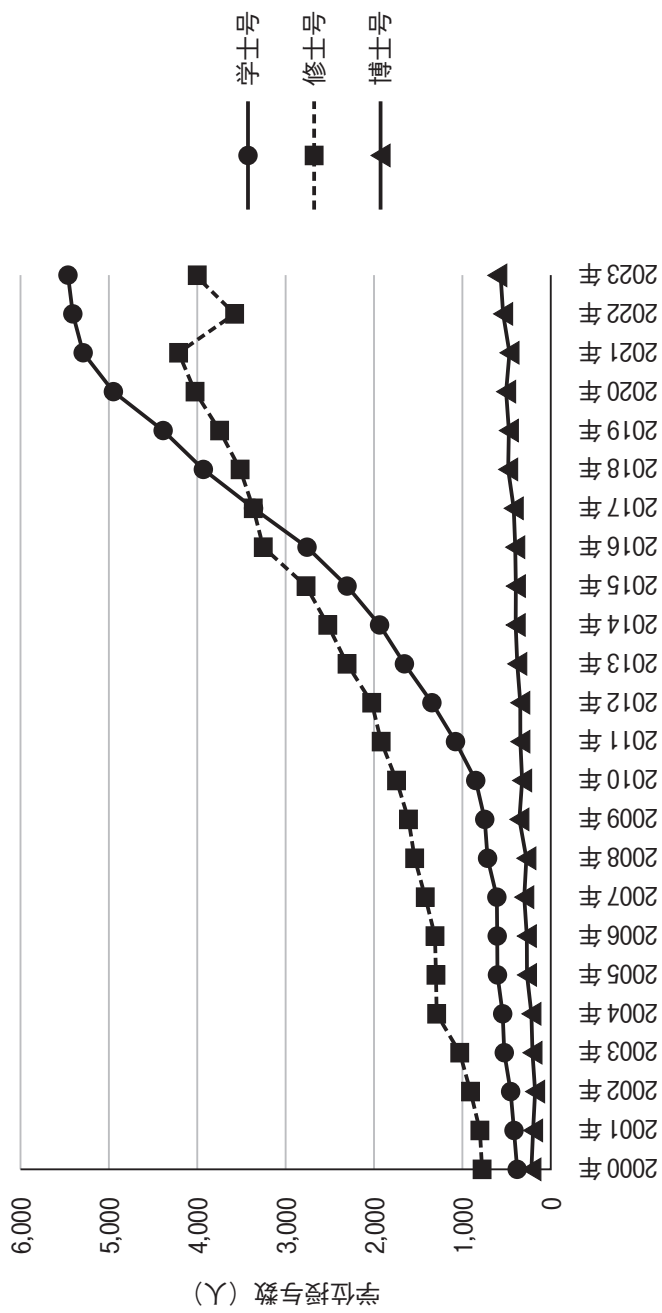
### 設問 2

今後、国内での専門的なデータサイエンス関連人材に関わる大学からの供給は、修士号取得者が年間約 1,300 人、博士号取得者が年間約 220 人とされています\*2。これらを踏まえ、設問 1 および図表 4~7 をもとに、米国の学位授与の状況と日本の状況を比較しながら、当該分野の今後の日本での人材育成について、国、企業、大学等の主体がどのような対応策を講じるべきか、あなたの考えを 550 字以内で述べなさい。

\*1 学位とは、大学や大学院で専門的な学問を修め、その知識や能力が一定の基準を満たしていることを大学や国が認める称号のことです。「学士号」は大学を卒業した証で、主に大学（学部）を卒業すると取得できる学位です。「修士号」は専門性をさらに深めた証で、大学を卒業した後、さらに大学院（修士課程）に進んで修了すると取得できる学位です。「博士号」は高度な専門家の証で、修士号を取得した後、さらに大学院（博士課程）に進んで修了すると取得できる最も高い位の学位です。

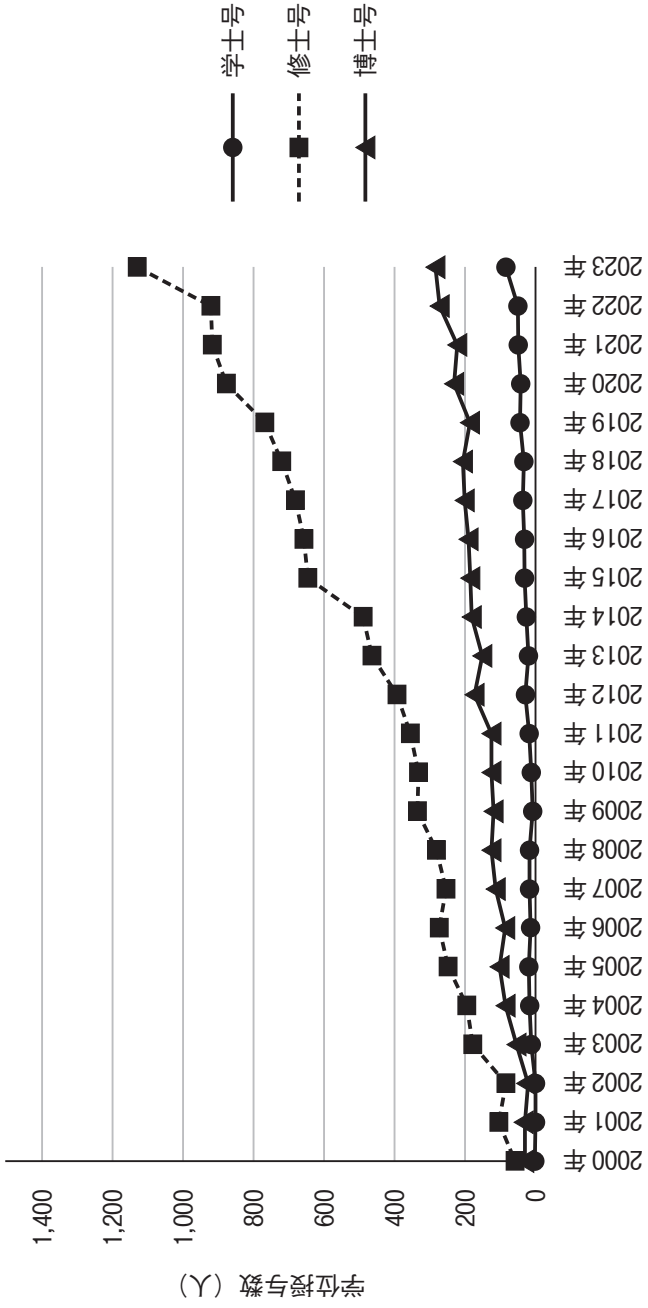
\*2 経済産業省委託調査、IT 人材需給に関する調査（2019 年）より。

図表1 米国内における「統計学」の学位別の学位授与数



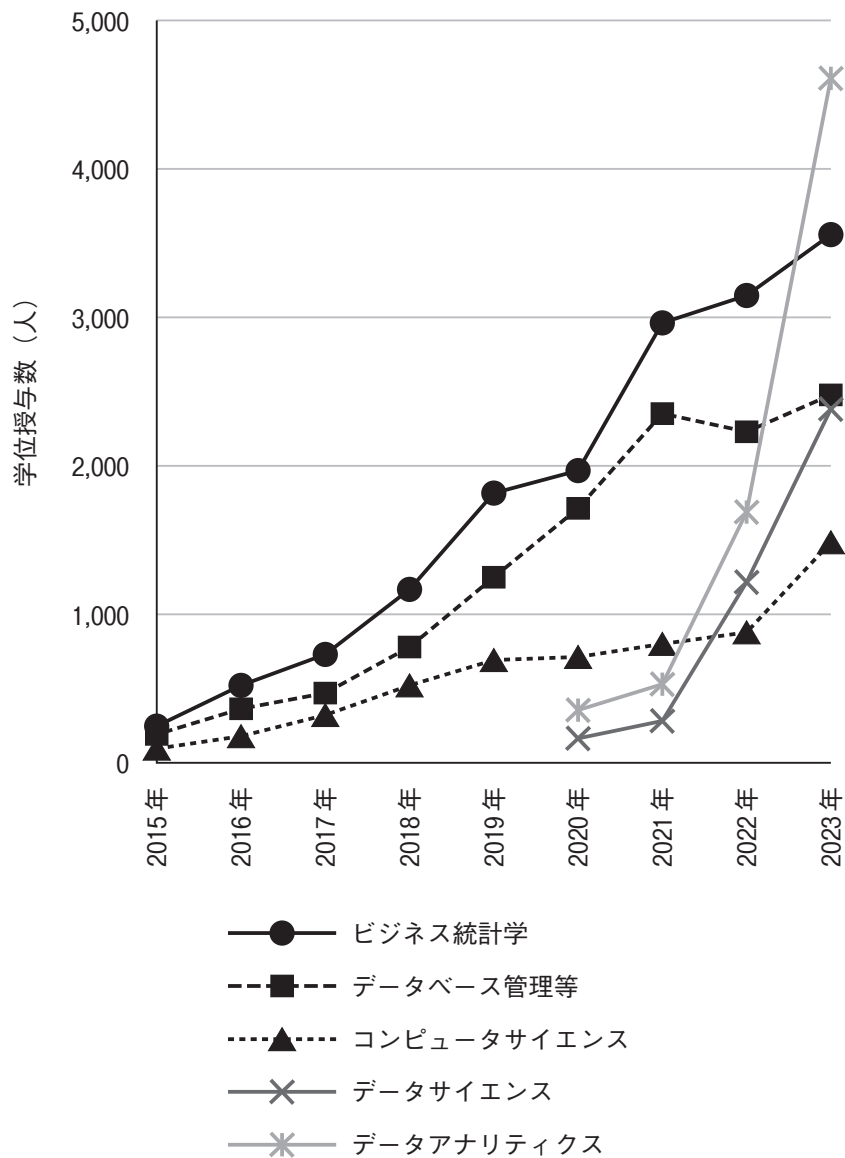
出典：米国教育省（2025年）「全米教育統計センター」

図表 2 米国内における「医学統計学」の学位別の学位授与数



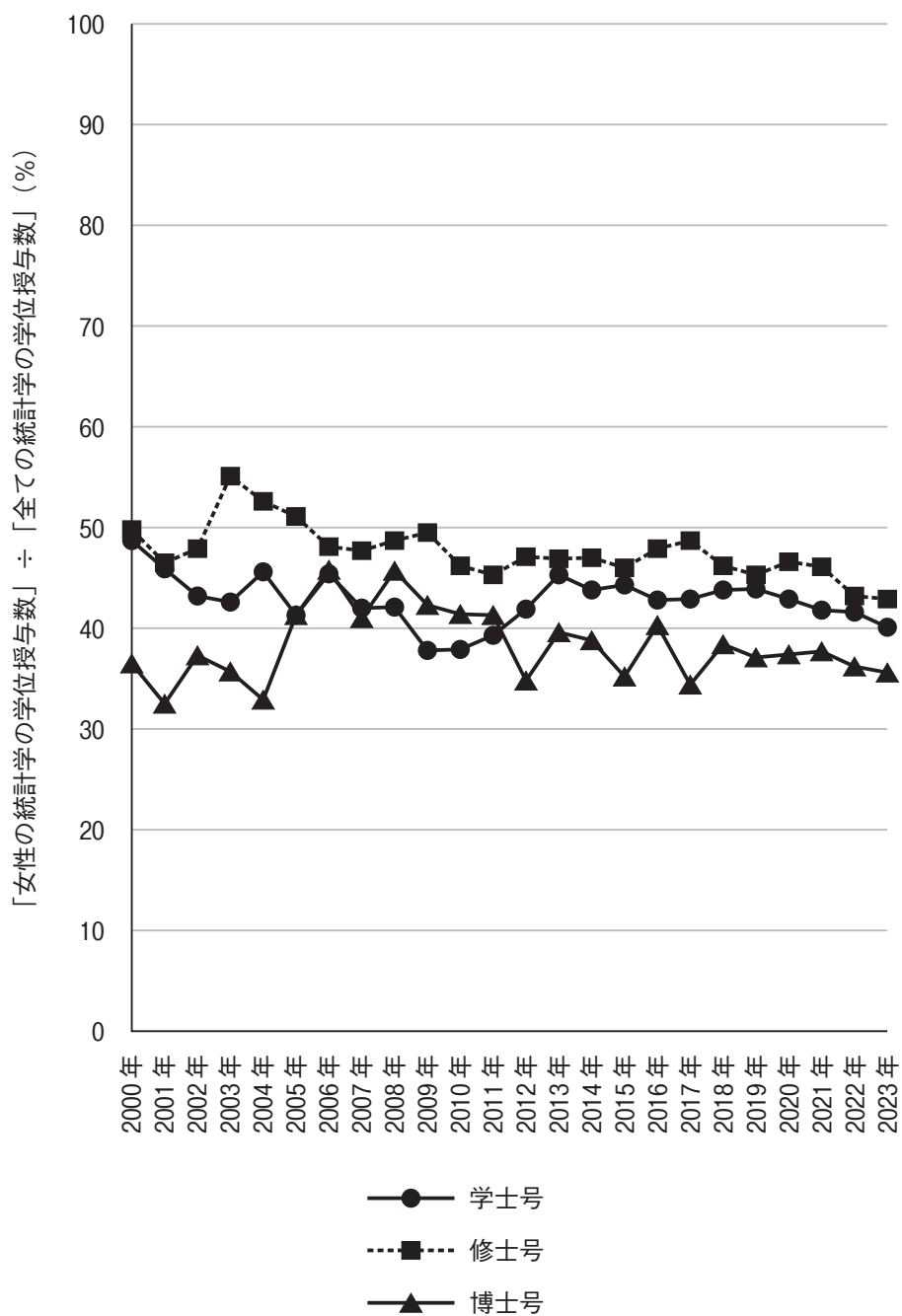
出典：米国教育省（2025年）「全米教育統計センター」

図表3 米国内における「データサイエンス」「データアナリティクス」関連の修士号の学位授与数の推移



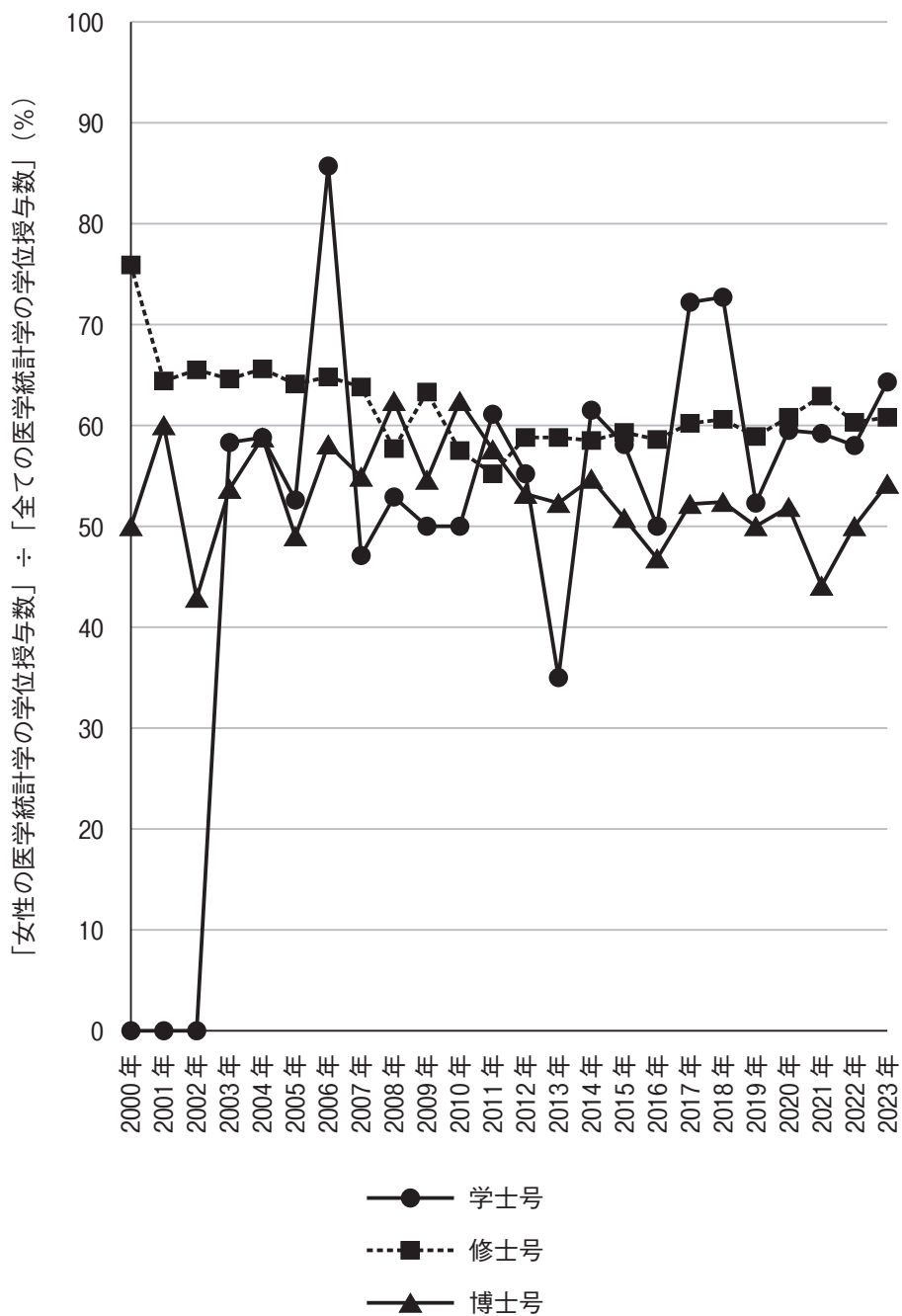
出典：米国教育省（2025年）「全米教育統計センター」

図表4 米国内における女性の「統計学」の学位取得割合



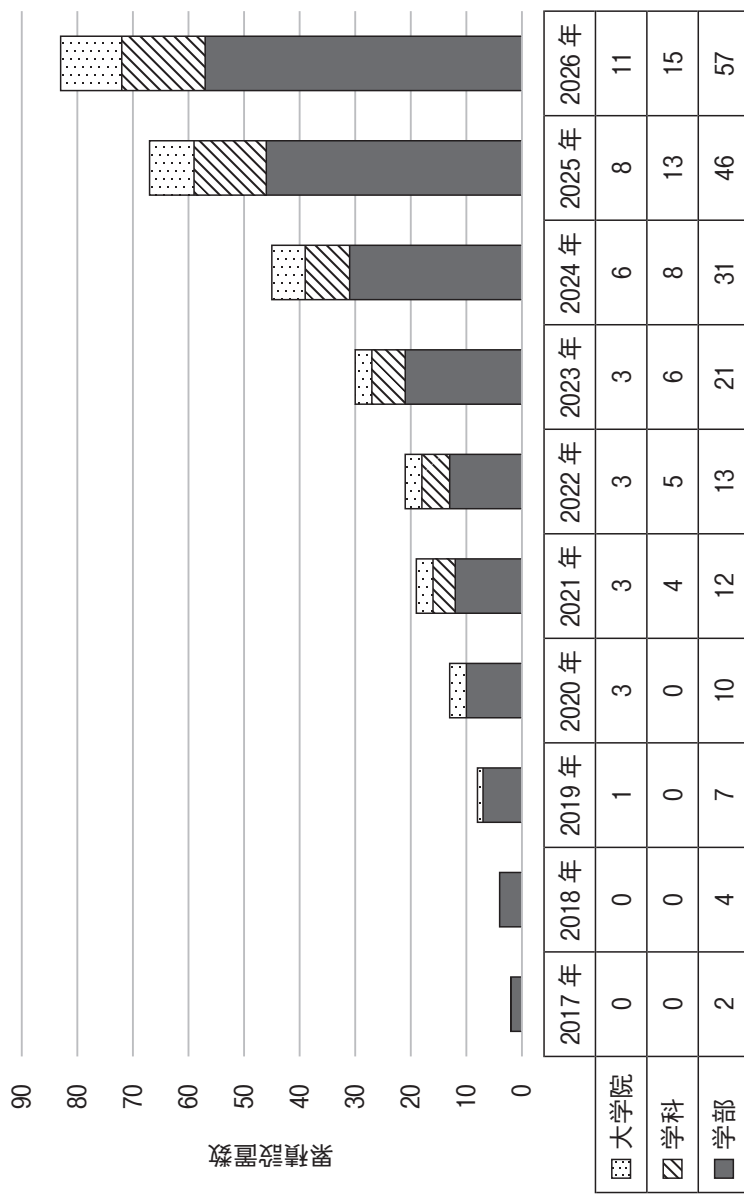
出典：米国教育省（2025年）「全米教育統計センター」

図表5 米国内における女性の「医学統計学」の学位取得割合



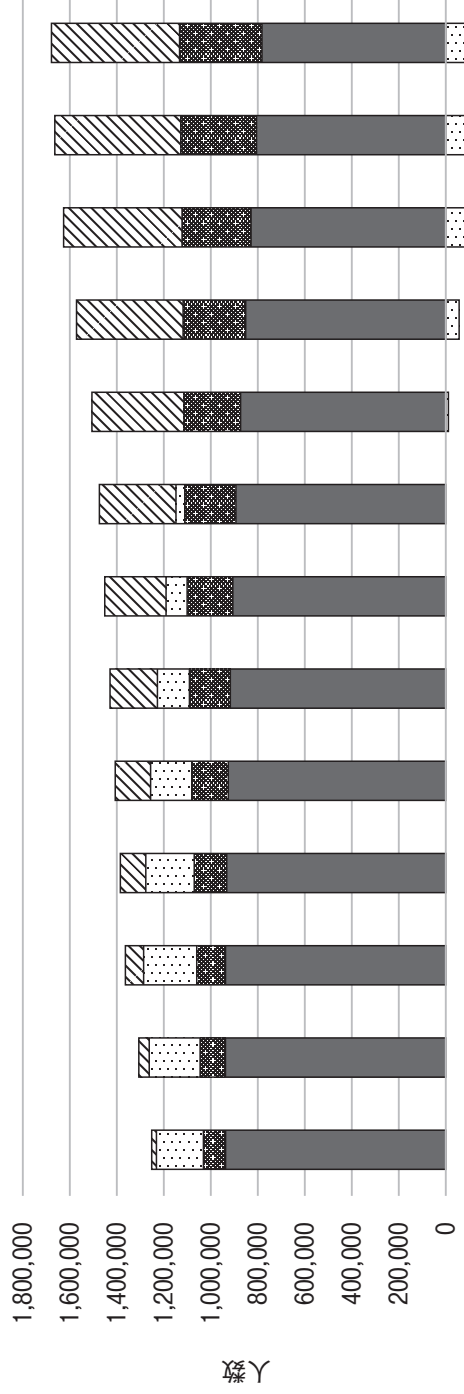
出典：米国教育省（2025年）「全米教育統計センター」

図表 6 国内大学におけるデータサイエンス学部等新設状況



出典：文部科学省（2025年）「新設大学等の情報」

図表7 国内におけるIT人材数と不足数



|            | 2018年   | 2019年   | 2020年   | 2021年   | 2022年   | 2023年   | 2024年   | 2025年   | 2026年   | 2027年   | 2028年   | 2029年    | 2030年   |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|
| 先端IT人材不足数  | 20,138  | 44,311  | 77,638  | 108,344 | 150,531 | 201,674 | 260,890 | 325,936 | 391,699 | 453,432 | 504,077 | 536,606  | 545,118 |
| 従来型IT人材不足数 | 199,862 | 216,523 | 226,042 | 206,096 | 175,184 | 136,174 | 89,642  | 38,134  | -10,843 | -55,249 | -88,690 | -104,337 | -96,521 |
| 先端IT人材数    | 94,424  | 107,869 | 122,473 | 138,202 | 155,367 | 174,087 | 194,592 | 216,863 | 240,973 | 266,542 | 293,577 | 321,779  | 350,742 |
| 従来型IT人材数   | 937,114 | 937,643 | 937,403 | 932,356 | 925,695 | 916,963 | 906,244 | 893,257 | 873,252 | 851,542 | 828,791 | 805,497  | 782,307 |

出典：経済産業省（2019年）「IT人材需給に関する調査」

※「先端IT人材」：近年のAIやビッグデータ、IoT等の第4次産業革命に対応した担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる先端IT技術等に関連する市場を担う人材。